

わだば(わたしは)ゴッホになる

む な か た し こ う

棟方 志功

1903 (明治 36) 年9月5日—1975 (昭和 50) 年9月13日



ふくみつ そかい せいさく
福光に疎開し多くの作品を制作

ばんが ばんが け
世界的に有名な版画 (版画) 家

こくさい たいしょう じゆしょう
国際版画大賞を受賞

絵が好きな少年

青森市の刃物をつくる職人の家で
15人兄弟の三男として生まれました。
祖母に育てられ、仏様の話をよく聞

かされました。生まれつき視力が弱
かったものの、子どものときから絵を
描くのが好きでした。小学校卒業後
は父の仕事を手伝い、17歳のときには
裁判所で助手として働きました。

福光で多くの創作活動

18歳のとき、ゴッホの「ひまわり」
を見て感動した志功は、「わだば (わ
たしは) ゴッホになる」と油絵を志
しました。21歳で上京しましたが、作
品は認められず版画の道に進みます。
志功は版画の実力が認められました。

太平洋戦争が激しくなると、1945
(昭和20)年、東京から西砺波郡福
光町 (現南砺市) へ疎開しました。

福光の人たちは志功を温かく迎え、
志功もこの町が大好きになりました。
戦争が終わっても7年近く住み続け、
その間、多くの作品を生み出しまし
た。特に1948 (昭和23) 年は、志
功の生涯を通じて1年間に最も多
く作品を生み出した年になりました。

志功は1956 (昭和31) 年、ベネ
チア・ビエンナーレ展で国際版画大
賞を受賞し、「世界のムナカタ」と
呼ばれるようになりました。

夢や志をかなえたポイント

- 情熱をもって制作にあたる
- 自分の得意分野を見つける
- 親切にしてくれた人に恩返し
する



ふくみつまち ふうけい えがき しき
福光町の風景を描いた「四季福光風景」の「小矢部
早春」(左)と「愛染呼冬」(南砺市立福光美術館蔵)

豆知識

志功は自分の版画を「版画」と呼んでいました。それには、板の命を彫り起こすという意味がこめられていました。